

令和5年度 学校評価一覧表② (様式2) 太田市立太田中学校

羅 針 盤		自己評価 (総合)	学校関係 者評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え	
評価項目	具体的数値項目					
I 保護者との連携	学校と保護者との情報共有	学校の様子をおおよそ把握していると答える保護者が85%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 手段が多様化しているため、発信だけでなく知りたい情報を取りに来てもらうのがよいのではない。 • 学校の実態を保護者に知ってもらうよう配慮できている。 • 写真もわかりやすく充実したホームページであり、保護者も学校の様子がよく分かると思う。 	既存の発信方法だけでなく、インスタグラムなどSNSを利用した発信や、Webページのリニューアルを行うことで、積極的な発信も行っていく必要がある。
	学校と家庭の信頼関係づくり	子供を共に支える関係ができていると答える保護者が85%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 学校の歩み寄りが柔軟で素晴らしい。 • 学校と家庭の信頼関係の仲で子どもに対する真の教育が実践されている。 • 安心して学校に子どもを任せられると考えている家庭が大半であると思う。 	今後も家庭との対応を行う際は、管理職も含む全職員(チーム)で行うことで、家庭からの信頼が図られると思われるため、全職員で継続して取り組んでいく必要がある。
II 確かな知性	「主体的・対話的で深い学び」の実現	授業中、自分で考えたことを伝えたり、友達と話し合いをしたりしていると答える生徒が85%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • できる子が教える、自分のできる事できない事を理解しているのはよい。特に教え合える事が素晴らしい。 • 生徒の自主的な活動が見られる。 	話し合いはしっかりできているもの実感に伴っていないと考えられるので、左記の改善策に取り組むとともに、話し合いに対する振り返りや称賛の機会を増やす。
	ICT機器の活用	授業や家庭学習でICT機器を有効に使っていると答える生徒が85%以上である。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> • ICTは効果的に活用する事が一番。指導を継続して行っていく事が大切である。 • エナジードを活用したキャリア学習は生徒も興味を持ちながら取り組んでいると思う。 	太田市GIGAスクール構想Step2「教科の“学びを深め”、“本質に迫る”活用」とStep3「教科の“学びをつなぐ”活用」を意識した授業を行っていく。
	家庭学習や読書への取り組み	家庭で学習や読書に進んで取り組んでいると答える生徒が85%以上である。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> • 親子でメディアを遮断して読書時間を作ったり、親の前で読書をするような課題を出したりなど、継続した啓発や読書を増やす工夫をしていくとよい。 • 家庭は安住の空間であり、つい甘えが見え隠れする。甘えが先行しないように注意する事も大切である。 	図書委員会や司書と連携を図り、図書室の利用や読書推進のしかけをしていく。
III 豊かな人間性	学校生活の充実	自分達で企画したり、運営したりする行事を通して、達成感や充実感を味わっていると答える生徒が90%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 9割以上の生徒が充実感を感じているのは素晴らしい。 • 意見を出し合い企画した行事が終了したときの達成感や充実感は格別なものがあるようだ。 	学校行事の精選と共に、実施時期の見直し、指導計画の作成など学年・学級の実態に即した対応が求められる。また、行事を実施した後の振り返りを充実させることで自己肯定感や共同体感覚を強化できると考えられる。
	感動する心や他人と協調し思いやる心の育成	福祉体験、自然体験、宿泊体験など様々な体験を通して、感動を味わったり、仲間と協働する大切さを味わったりしていると答える生徒が90%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 種々の体験学習を通して成功を味わったり、仲間と協働する事の大切さを知る事ができたようで満足している様子が分かる。 • 課題をミッションという形で投げかける事は、いかにも生徒達のやる気や向上心をくすぐっている。 	生徒自身は様々な学校行事の中で多くのことを経験できるので、一つ一つの行事に取り組む目的を明確にし、意欲を向上させることが大切である。また、保護者に向けては、生徒が取り組んでいるプロセスをどう伝えていくかが一番の課題である。
	道徳的判断力、心情、実践意欲と態度の育成	道徳の授業の中で、様々なテーマについて考えたり友達の意見を聴いたりすることで、自分の生活を振り返り、今後の自分の行動について深く考えるようにしていると答える生徒が85%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 自己中心的な考え方や行動について、今後の自分自身の在り方をいかにすべきか、考えるようになったことはよい事である。 	1回目と比べ2回目保護者の数値が向上したため、授業の様子を発信するなどの「親子で考える機会の提供」を今後も続けたい。
IV たくましい心身	健やかな体づくり	バランスのよい食事と適度な運動、睡眠時間の確保を意識し、健やかな体づくりに努めていると答える生徒が90%以上である。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> • 睡眠については子どもは足りないと感じているものの、親は寝ていると思っているギャップがあり、その現状改善に向けて生活調べとして記入カードを作るなど、啓発、教示を工夫し継続していく事が大切である。 • 自己に厳しくが大切であると思う。 • 施設設備、指導者による高いレベルの指導、高校生と一緒に指導を受ける部活動など、健やかな体作りにつながっていると思う。 	生活習慣の見直しをし、自分で課題を把握し、改善できるようにしていく。特に保健の授業で日常的に振り返えったり、長期休業時も自分の生活を見直し、振り返ったりできるようなワークシートを作成する。
	相談体制の充実	不安や悩みごとができたとき、相談できる相手がいったり、対処の仕方が分かると答える生徒が85%以上である。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> • 担任の先生、顧問の先生、教科担当の先生などが気さくに声をかけてくれているのがよい。その様な環境にいるので生徒も安心していられるし、大丈夫と思えるのではない。 • SCによる「SOSの出し方授業」や「いつでもどこでもだれでも」を合い言葉にするなど、多様な生徒への組織的な支援体制を築いていることが分かる。 	教育相談が必要な生徒に関して時間が割かれることは多いが、中間層のケアは依然不足しているように思われる。普段なかなか声をかけることが少ない生徒を抽出し、意識的な声かけを継続していく必要がある。
	部活動を通じた健全な心身の育成 (校外のクラブ活動を含む)	自分たちの自主性を生かした部活動を通して、心身を鍛えていると答える生徒が85%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 部活動、校外のクラブ活動の壁を作らずにのびのびと活動できているところがよい。 • 部活動は豊かな人間性育成のステージとして大切であると考ええる。 • 各種競技の好成績は、それぞれの部で目的意識を持ち、さらには文武両道を目指して、自主的・意欲的に取り組んでいるためだと考える。 	中高の部活動の連携をスムーズに行えるようにするために、中高の部活動のつながりを多くもてるようにする。
V 安全教育	危険を予測し、安全な行動をとれる生徒の育成	通学や学校生活その他の日常生活において、危険を予測し常に安全な行動を心掛けていると答える生徒が90%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員と生徒が連携して取り組む事に意義があると思う。 	教員だけでなく、安全委員などを活用し生徒目線からの安全確認や危険箇所の察知も並行して行い、安全への意識高揚を図っていく。また、学校危機管理マニュアルを適宜見直ししていく。
VI キャリア教育	変化の激しい社会を生き抜く基礎的・汎用的能力の育成	授業や学校行事、委員会活動などを通して、企画力やプレゼン力、コミュニケーションスキルなど、社会に出て必要となる能力の習得を意識していると答える生徒が85%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 色々な行事、活動からの経験値によって自信がつくだけでなく、人間力も上がる。社会に出てからの活躍が楽しみである。 	エナジード教材による学習を3年生まで拡大し、学習と実践の場を多く設定することで汎用的能力の育成を一層図っていく。
	自分の将来を考え、夢や希望をもつ生徒の育成	授業や学校行事を通して、自分の将来について考えていると答える生徒が85%以上である。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもは教師と勉強し、将来の事をよく考えている。しかし、それが日常の意識につながっていない。やはり親に関心を高めてもらい、家でも話題にする時間を取るなど啓発の工夫を根気強く続ける事が大切である。 • 10の汎用的能力を関連付けたキャリアパスポートが「6年間の学校生活並びに将来設計」に資するものと思われる。 	キャリア教育を通して育成すべき能力や態度などをどのような内容や方法によって身に付けさせようとするのかを系統的に計画し、それを教育課程に位置付ける
VII 組織運営	学校教育目標の具現化に向けた協働	教職員間のコミュニケーションを図りながら、学校教育目標の具現化に向けて協働し、チームとして取り組んでいると答える教職員85%以上である。	A	A	意見なし	教職員間のコミュニケーションを深めていくためには意図的に目的に応じた場の設定が必要である。限られた時間の中でも確実に設定していきたい。
	本校の在り方や使命の共通理解	本校の在り方や使命についてを共通理解していると答える教職員が85%以上である。	A	A	意見なし	教職員の入れ替わりがある中で中長期的なビジョンを掲げることは難しい面もあるが、一貫性のある教育活動を行っていくためにも定期的に設定していく必要がある。
	中高一貫教育の推進	中高一貫教育推進委員会を軸に高校との連携を一層推進していると答える教職員が80%以上である。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> • 中高の6年間を一貫教育で、しかも公立で行っているのはよい事である。中高のこれからの連携の推進を応援している。 • 中高一貫教育の目的達成のため、より一層努力をしていただきたい。 • 中高一貫教育推進委員会、中高合同研修会などにより、組織的に中高一貫教育が推進されていると思われる。 	総合的な学習を軸とした中高の連携が図れてきたので、今後はキャリア教育や目指す学校像を中高の職員が同じビジョンをもって日々の教育活動に当たられるようにしていきたい。
	規律確保・働き方改革	規律確保行動計画を基に服務規律の確保に努めていると答える教職員が90%以上である。	A	A	意見なし	超過勤務については個人差が大きいので、今後分掌の見直しや生徒指導対応などにもチームで取り組む体制作りを進めることで、勤務時間の平坦化を図っていききたい。